

大学における ICT 支援-獨協大学の取り組みから-

立田ルミ†

獨協大学では、教務情報データおよび教材のデジタル化を目標に 1996 年に教職員全員にインターネット対応のコンピュータを導入した。しかし、シラバスをデジタル化できたのは、4 年後の 2000 年からである。また、2002 年より全教室にプロジェクタとパソコン、教材提示装置、などが設置されたが、その利用率は 30% 程度であった。このため、教育支援室が設置され教員の ICT 支援を行っていたが、2010 年 9 月より教育研究支援センターとして全学的に教育と研究の支援をする部署となった。また、2010 年 9 月より東棟が新築され、そこの 4 階にコンピュータールームが集中化され、ヘルプデスクも移転された。本稿では、教育支援組織の実態と教育に利用できる支援システムおよび利用実態について述べる。

ICT Support at University - Case Study of Dokkyo University- Lumi Tatsuta

LUMI TATSUTA†

At Dokkyo University, the Internet-enabled computers have been introduced for all faculty members in 1996 to target the digitization of instruction data and materials. However, it was able to digitize the syllabus from 2000. In addition, the projectors and computers have been introduced to all classrooms in 2002, but its utilization was only about 30%. For this reason, the educational support room was set up, which had been supporting faculty. became departments of education and research to support the university as a center of education and research support from September 2010. In addition, the East Building is new construction in September 2010, has a centralized computer room on the fourth floor of there, and help desk was relocated. In this paper, we describe the situation and use of support systems available to education and educational support organization.

1. はじめに

現在大学に入学してきている大学生は、生まれた時から家庭で ICT を利用する環境にあり、小学校・中学校・高等学校でも ICT を利用する環境に恵まれている。このような状況で、教員と学生にどのような ICT 支援が必要かを考えてみたい。

獨協大学は 1964 年に開学された大学で、再来年創立 50 周年を迎える。そして、大学は獨協学園のグループの中の 1 つの大学である。獨協学園そのものは獨逸學協会を母体として 1883 年（明治 16 年）に開校しており、129 年の歴史を持っている。獨協大学は、外国語学部、国際教養学部、経済学部、法学部の 4 学部と、外国語学研究科、経済学研究科、法学研究科、法務大学院の 4 研究科からなる文科系大学である。学生数は、学部と大学院を合わせて約 9000 人、専任教員数は 220 名である。

本学は、文科系大学としては比較的早い段階の 1968 年からコンピュータを導入し、コンピュータ教育を開始して

いる。コンピュータが導入されたのは 1968 年 12 月であるが、1967 年にコンピュータ導入のための委員会が設置され、1968 年に電子計算機室が設立されている。大学創設者の天野貞祐博士がアメリカの大学をベースにして、実学を伴う大学を理想としており、1964 年の開学当初からコンピュータ教育を行うことが想定されていたのである。そして、これらの資料は、獨協大学天野記念館内にある獨協歴史ギャラリーに保存されている。

前述のような構想の下に、1968 年 12 月に IBM1130 というコンピュータが設置された。当時は国産コンピュータ以外のコンピュータを導入するのは当時の通産省の許可があったが、APL(A Programming Language)が使えるコンピュータが必要ということで購入の許可が下りた。当時のコンピュータはすべて購入しており、レンタルになったのは 1996 年からである。コンピュータそのものは、文部省の助成金との関係から 5 年ごとにリプレースされてきたが、1988 年にパソコンを導入してからは教室ごとに導入時期が異なり、4 年ごとにリプレースしている。その後 1996 年より全教室に同じメーカーの機種を導入するようになった。

† 獨協大学
Dokkyo University

ソフトウェアに関しては、OS とアプリケーションソフトの基本的なものは、管理の容易さを重視して3教室を除いてどの教室も同じ環境となっている。

一方、1996年9月に全教職員にネットワーク対応のコンピュータが導入されたことにより、教材作成や事務文書にコンピュータが多く使われるようになってきた。さらに、2000年度より教材作成支援組織が編成され、デジタル教材が増えてきている。さらに、2010年9月より教育研究支援センターと組織が拡大されたことにより、デジタル教材が増えるのではないかと期待がある。しかし、教員に配布されているコンピュータのOSとアプリケーションは教室と異なっているという問題点を抱えている。

本稿では、獨協大学におけるICT支援のための組織の現状と、教員が授業でICTを活用するための支援組織の実態と問題点および教育支援システムに関して論ずる。

2. ICT支援組織の変化

2.1 電子計算機室・計算センター

前述のように、獨協大学では電子計算機導入委員会が設置され、1968年12月に文部省の補助金を得てIBM1130が導入された。そして、1968年4月に電子計算機室が設置され、1972年に計算センターと名称が変更された。この組織では、主にコンピュータを利用した教育と研究をおこなっていた。その後1974年には事務計算室が新たに設置され、大学の事務処理はすべてそこが管轄することになった。

2.2 情報センター

事務計算機室が出来た後、1981年に計算センターと事務計算機室という2つの組織が統合され、情報センターとなった。1999年に21世紀委員会が設置され、その答申の中で、情報センターと外国語教育研究所および図書館を合併して、総合学術センターとする構想が打ち出された。

2.3 教育支援室

2007年4月に大学創設35周年を記念して、天野貞祐記念館がオープンし、そこに教育支援室が設置された。教育支援室には、学生用のパソコン貸出窓口およびMM(MultiMedia)工房が設置された。また、天野記念館に新しくオープンした図書館でもコンピュータ150台が設置され、教育支援室ではその対応もしていた。

2.4 教育研究支援センター

2010年9月に新教室棟が完成したのに合わせて、情報センターが改組され、教育研究支援センターと施設事業部情報基盤整備課になった。その後、2011年4月に、情報センターの研究部門が独立して情報学研究所となった。しかし、21世紀委員会が構想した、図書館を合併した総合学術センターとはならなかった。教育研究支援センターの詳細については、後述する。

3. ネットワークの変化

コンピュータが設置されて以来、1984年以前はIBMの小型機種が5年毎に更新され、端末装置をいくつか教室に置いて利用していた。

1984年にIBM5550 20台をLAN接続して利用したのが、ネットワーク利用の最初である。

3.1 BITNET

1989年4月にIBMユーザのための学術ネットワークであるBITNETに加入し、インターネットとしての利用を開始した。当時のネットワーク利用者は、パソコンとメインフレームの両方を使い分けできるユーザでなければならず、利用者はごく一部の教員と情報センターの職員のみであった。

3.2 JUNET

1994年4月にJUNETに加入し、TCP/IPによるインターネット接続を開始した。JUNET接続当時は利用者を登録制度にしていたため、インターネット利用者は以前より少し増えた程度である。また、教室におけるクライアントの数は数十台に制限していた。この利用者登録制度を設けていたのは、当時の外部へのネットワークスピードが64Kbpsであったためである。

3.3 DAINET

1996年にDAINET(Dokkyo ACADEMIC NETwork)としてキャンパスLANが再構築され、LANスピードが10Mbps、学外へのスピードが128Kbpsになったため、教職員全員のコンピュータをネットワーク接続し、教職員全員にメールアドレスを配布した。学生の方は、クライアントパソコン約300台を配置し、授業時間以外でも空いた教室から電子メールやホームページをブラウジングできるようになった。

しかし、学生の利用が増えてネットワークが渋滞することが多く、1997年に学外へのスピードを1.5Mbpsにアップした。獨協大学は埼玉県草加市にあり、NTTの専用回線で東京理科大学と結んでJOINに加入していた。当時、ギガビットのネットワークが敷設されている地域もあったが、草加市のNTTでは1.5Mbpsが最大のスピードであった。

3.4 DAINET-2

2003年にDAINET-2としてキャンパスLANを再構築し、2004年からはIIJと100Mbpsで接続し、学内LANも100Mbpsとなった。しかし、このネットワークスピードでは、約1000台規模のパソコンから動画の学外配信をするには無理があるので、動画配信は別のサーバーとネットワークを用いていた。この時よりVPN接続を開始し、学外からも学内LANに接続が可能になった。また、メールサーバーも更新した。

3.5 DAINET-3

前述のように、2010年9月に新しい棟が建設され、その4階にコンピュータ教室が集中化される(671台)ことになり、DAINET-3としてネットワークが再構築された。ここでは、無線LANと認証システムの更新が行われている。

4. ICT を利用する環境

デジタル教材が開発されたとしても、それを利用できる環境がなければならない。獨協大学では、2012年度の教室環境は次のようになっている。

4.1 コンピュータ教室

大学院生用教室と図書館多目的教室以外はすべて新しくできた東棟4階に集中化された、すべての教室のOSはWindows7に統一されている。これらは各教科の担当者の要望を取り入れているため、教室によりソフトウェアの内容が異なっている。これらのすべての教室はノートパソコンになっており、1教室を除いてパソコンが机の中に収納できるタイプである。これは、将来コンピュータールーム以外の教室としても利用できるようにしているためである。しかし、机の蓋が重く開け閉めが大変なため、ほとんど開けたままで利用されている状況である。

また、モニターが2人に1台設置されている教室が3教室から1教室に減ったため、モニターのある教室の競争率が高くなっている。これらはポータルサイトの教室利用状況から、教室の写真を見ることが可能になっている。

新教室のコンピュータ利用可能人数は、50～60名教室—8、30名教室—8となっている。それ以外に、図書館多目的教室—1、大学院生用教室—1がある。

4.2 コンピュータ画面投影可能教室

多くの学生が受講する科目では、教員のコンピュータ画面を投影して講義することになる。そのため、すべての教室にプロジェクタとノートパソコンが設置されている。また、CD、DVD、書画カメラも設置されている。ノートパソコンを借りて利用する場合、情報センターのみで行っていた貸出を、現在は教育研究支援センターおよび講師室に派遣されている教育研究支援センターのスタッフで行っている。また、最近ではポータブルのプロジェクタとスクリーンが購入されたので、ゼミ合宿などで外部に持ち出すことも可能になった。

教室は2012年度現在182教室あるが、すべての教室にプロジェクタとコンピュータ、教材提示装置、AV機器がそろっている。また、コンピュータ教室は午後8時まで開いており、授業のない時は誰でも自由に利用できるようになっている。そのために東棟4階にヘルプデスクが設置され、夜間は大学院生と学生スタッフが常駐している。しかし、教室での遅い利用者数が減少しているため、現在は安全性を考慮して一部の教室のみを開放している。

夜8時以降の利用については、図書館が平日22時まで、土曜日20時まで開館しているため、そこに設置されている150台のパソコンを利用できるようになっている。

以上のように、本学ではITCを利用した教育を行うための教室環境はほぼ整っている。

5. デジタル教材開発環境

5.1 研究室全員にコンピュータ導入

教員がデジタル教材を作成するために必要な基本的なハードウェアとして、1996年9月に全員の研究室にネットワーク対応のコンピュータが設置された。これはWindows対応のコンピュータを標準としたが、Macintoshを希望する教員が多かったので急遽Macintoshも配布することになった。しかしMacOSに対しては、ネットワークドライブの利用はできなかった。これは現在も同じである。

教職員全員にコンピュータが配布されて3年が経過した2000年には、それぞれの教員が様々なコンピュータ利用をしてきた。コンピュータを入れ替えるに当たって、標準仕様と拡張仕様に分けて希望に応じて予算の範囲内で、機器とソフトウェアを配布することに情報センターの企画委員会で決定した。

5.2 コンピュータの入れ替え

2003年にコンピュータを入れ替えることになった。入れ替えの時は、デスクトップ型とノート型の選択も可能にした。さらに2007年9月にもコンピュータの入れ替えを行なった。その時もデスクトップ型とノート型の選択が可能ないようにした。しかし、2007年に研究室に導入されたパソコンは予算がないという理由で、2012年現在も入れ替えが行われていない。

5.3 ソフトウェア

ソフトウェアに関しては、導入当時は教室と同じ環境になっていた。また、2003年と2007年の入れ替えの時も、教室と同じ環境になっており、デジタル教材を作成しても問題がなかった。しかし現在では2007年当時の教室環境の基本ソフトウエアがインストールされており、教室の環境とかけ離れたものになっている。OS(Windows 7)、Microsoft Office 2010、Visual Studio 2010に関しては、教育研究支援センターで貸出をおこなっているが、自分でインストールする必要があるため、一部の教員しか教室環境と同じにしていない。

また、特殊なアプリケーションソフトについては研究費で購入しなければならない状況である。教室とのバージョンが異なる場合は、教室で教材を確認する必要がある。

また、ゼミ単位のホームページ運営に関しては、1995年より情報センターで試験的に運営し、1997年より広報部に移管され、その後総合企画課に移管されている。現在Webページを持っているゼミは、表1のようになっている。

表1 Web ページ利用ゼミ数

学科	ゼミ数
ドイツ語学科	4
英語学科	19
交流文化学科	2
フランス語学科	3
言語文化学科	2
経済学科	4
経営学科	12
法律学科	1
国際関係法学科	1
総合政策学科	1
合計	49

表1からも分かるように、Web ページを利用しているゼミはそれ程多くない。

6. 教育研究支援センター

情報センターとは別組織であった教育支援室が行っていた業務は、2010年9月に設置された教育研究支援センターに受け継がれている。一方、ネットワーク基盤とサーバーの管理などは、施設部の情報基盤センターが行っている。

現在、教育研究支援センターの行っている業務は次のようになっている。

6.1 教育支援

教育支援の窓口は、教育研究支援センター、講師室、東棟4階、天野記念館2階と4つに分かれている。そのため、支援内容によってはあちらこちらに行くことになる。

支援の主な内容は、以下のようになっている。

- ・アカウントの発行
- ・教員用追加アカウントの発行
- ・メールアドレス変更
- ・パスワード再発行
- ・共有ホルダの利用申請
- ・メーリングリストの利用申請
- ・ホームページの利用申請
- ・個人研究室のプリンタートナー配布・回収
- ・講義支援システムの利用申請
- ・授業レポートシステムの利用申請
- ・デジタル教材作成支援
- ・遠隔授業の利用支援
- ・講習会の実施
- ・実験環境の運用
- ・AV機器の障害対応
- ・ノートPCの利用申請と貸出
- ・ヘッドホン、プロジェクトの貸出
- ・MM工房利用申請

- ・スタジオ利用申請
- ・PC教室AV機器操作説明
- ・PC教室トラブル対応

このように、様々なことに対応しており、外国語教育支援も合わせると、約50名のスタッフがいる。

6.2 研究支援

研究支援としては、個人研究費の管理、科研費などの申請業務、4研究所（情報学研究所、外国語教育研究所、環境共生研究所、地域総合研究所）のサポートがある。本稿では、詳細については省略する。

7. ポータルサイト

2011年9月より、富士通の開発したポータルシステムを実験的に導入することになった。2011年にポータルシステムの愛称を募集し、PorTaと決まった。筆者は2011年秋学期より、このシステムを担当するすべてのクラスで利用している。このシステムは自宅のWebブラウザや携帯電話からも利用できるようになっている。本稿では、これまで利用した結果について報告する。

7.1 ポータルシステム概要

このシステムの機能としては、現在次のようになっている。

- ・週間スケジュール
- ・ToDoリスト
- ・大学および担当教員から学生へのお知らせ
- ・授業の資料配布
- ・レポート提出、回収
- ・教室管理
- ・キャビネット
- ・シラバス
- ・アンケート
- ・関連リンク

図1に、ログイン画面を示す。

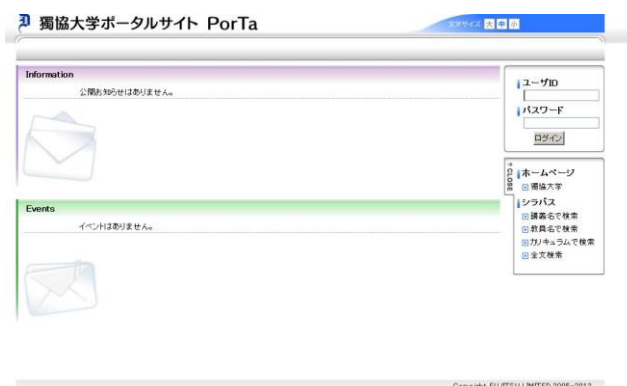


図1 ログイン画面

図1からも分かるように、ログインとパスワードの下に、

大学のホームページとシラバスの画面にリンクが貼られている。文字については、大・中・小が選択できるようになっている。大学からのお知らせやイベントがあることがトップページから分かるようになっている。

ログインすると、教員も学生も図2のように時間割やお知らせなど個人に対応した表示がされるようになっている。また、ホームページやシラバスなどのリンクは、表示しないようにも出来る。



図2 トップページ

図2からも分かるように、本日のスケジュール、お知らせ、個人へのお知らせ、大学からのお知らせ、週間スケジュールが表示される。また、リンクとして、図書館のMy Library、大学のWebメール、個人研究費などのページにリンクが貼られており、便利である。ここでは、メッセージやスケジュールの入力もでき、学内キャビネットではマニュアルや各種申請書がダウンロードできるようになっている。

現在、機能としてあるのは、講義支援、シラバス、教室管理、アンケートのみである。これは、多機能にしてシステムを大きくするより、利用する度合いの大きいものに絞ったためである。

7.2 レポート提出・回収機能

図3に、講義支援の中のレポート課題登録画面を示す。



図3 レポート課題登録画面

図3のように、レポート課題を出すには、個人の時間割から検索する必要がある。しかも、送信者の名前を入力する必要もある。トップページにその日の時間割が表示されているので、そこから科目を選択してレポート課題登録できるようになっていれば、教員の手間が省ける。これについては、再三変更するように要求しているが、パッケージを組み合わせているだけなので細かい仕様は変更されないままである。もし変更するとなると、費用がかかるという問題を抱えている。

レポート課題登録された後、図4のように課題送信一覧を見るようになっている。



図4 課題登録一覧

この一覧表は、レポート課題の期限内のもののみが表示されているため、期限切れのレポートをみるにはまた科目の検索が必要となる。教員側がレポートのチェックするのは期限後なので、検索のための入力操作をしなければならぬ分だけ面倒である。

レポート課題を選択すると、図5のような画面になる。

送信先	送信先を表示する
タイトル	今日の課題
詳細	例題2を完成、提出
提出期限	6/9 (土) 23:30 ■ 期限後の提出は許可しない
添付ファイル	ファイル1
	ファイル2
	ファイル3
	ファイル4
	ファイル5
備考(表示用)	

管理情報

宛先一覧	公開しない
コメント入力による返信	許可しない
転送設定	転送しない
提示期間	2012/06/05 (火) 11:55 ~ 2012/06/09 (土) 23:30
備考(管理用)	

登録状況

登録者	経済学部経営学科 立田 ルミ
登録日時	2012/06/05 (火) 11:58
更新者	経済学部経営学科 立田 ルミ
更新日時	2012/06/05 (火) 11:58

図5 レポート回収画面

図5の画面から「レポート回収をする」を選択することによって、図6のようなレポート一覧表が表示される。

学籍番号	氏名	提出日時	提出状況	コメント	ダウンロード
0702070	立田ルミ	2012/06/30 12:09	提出済み		[ダウンロード]
0802078	立田ルミ	2012/06/30 12:08	提出済み		[ダウンロード]
0902115	立田ルミ	2012/06/30 12:02	提出済み	よろしくお願ひします。	[ダウンロード]
0902119	立田ルミ	2012/06/30 12:01	提出済み		[ダウンロード]
0902129	立田ルミ	2012/06/30 12:06	提出済み	提出!	[ダウンロード]
0902131	立田ルミ	2012/06/30 12:01	提出済み	よろしくお願ひします。	[ダウンロード]
0902142	立田ルミ	2012/06/30 12:10	提出済み		[ダウンロード]
0902143	立田ルミ	2012/06/30 12:02	提出済み		[ダウンロード]
0902151	立田ルミ	2012/06/30 12:08	提出済み	お願ひします!	[ダウンロード]
111318	立田ルミ	2012/06/30 12:07	提出済み	お願ひします!	[ダウンロード]

図6 レポート一覧

図6からも分かるように、授業中に課題を出した場合、提出状況がすぐに確認できるので、授業の理解度がどの位であったのかがよく分かる。しかし、レポートを提出している学生の順番と教育手帳の順番が異なっており、成績評価する上では非常に面倒である。

獨協大学の学籍番号は8ケタであるが、上2ケタは入学年度、3桁目が学部、4桁目が学科、5桁目がチェックコード、下3桁がアルファベット順の番号となっている。この1桁のチェックコードは、学生が番号を書き間違えた場合にエラー検出をするためのコードである。教育手帳を印刷しているシステムは事務システムの一部であり、チェックコードを抜いてソートされて印刷されている。一方、PorTaでは学籍番号を単純にソートしているため、教育手帳の順

番と異なっている。現在、定期試験や大教室での出席は、マークシート記入方式になっているため、マーク記入エラーを検出する必要があるため、エラーチェックコードが必要となっている。

7.3 教室管理機能

2011年度までは、教員が教室変更したり特別な授業で教室を借りたりする場合、教務課に行き職員に教室の大きさや設備の希望を言って、空き教室を検索してもらった必要があった。学会や研究会を開催する場合には複数の教室が必要なため、検索してもらうのに時間がかかっていた。

2012年度にPorTaの教室管理機能が追加されたことにより、どこの場所からでも空き教室と教室の写真がみることが出来るようになった。

教室検索画面を図6に示す。

検索条件としては、単一の指定かどうか、曜日指定などがある。詳細検索条件としては、教室名を直接入力することも可能であるが、教室のある棟、収容人数、利用機器などで検索できる。

検索条件

必要な情報を入力し、再検索ボタンを押してください。(*の項目は必須です。)

日付: 単一指定 | 2012/06/04

繰り返し条件:

 毎日

 毎週 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | 土曜日 | 日曜日

 毎月 | 月曜日 |

 毎月 | 日

詳細検索条件 ▲ 検索条件を開く

必要な情報を入力し、再検索ボタンを押してください。

教室名: [検索欄] 前方一致

キャンパス・建屋:

 獨協大学 | 4棟 | 5棟 | 6棟 | A棟 | E棟

 (指定なし) | (指定なし)

教室種別:

 一般 | 特別 | OAL | PC | ゼミ

 その他

収容人数:

授業 人 ~ 人 | 試験 人 ~ 人 | 他 人 ~ 人

設備:

 教員用無線PC | プロジェクター | スクリーン | 音画カメラ | VHS

 世界対応VHS | DVD | DVD(CPRM対応) | LD | CD

 MD | カセット

[クリア] [再検索する]

図6 教室検索画面

検索の結果、図7のような画面が表示される。

教室名	教室種別	収容	設備	1時間	2時間	昼休み	3時間
E-410	PC	62	英語2入門 (4棟 5階)	英語2入門 (5棟 5階)	英語2入門 (5棟 5階)	英語2入門 (5棟 5階)	英語2入門 (5棟 5階)
E-411	PC	32	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)
E-412	PC	51	自然・環境・人間 学 (清・5階)	自然・環境・人間 学 (清・5階)	自然・環境・人間 学 (清・5階)	自然・環境・人間 学 (清・5階)	自然・環境・人間 学 (清・5階)
E-413	PC	32	基礎演習 (立田 1)	基礎演習 (立田 1)	基礎演習 (立田 1)	基礎演習 (立田 1)	基礎演習 (立田 1)
E-414	PC	51	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)	基礎演習 (奥田 1)
E-415	PC	32	English/Academic Listening Str. (E-W.ジャンプ)	English/Academic Listening Str. (E-W.ジャンプ)	English/Academic Listening Str. (E-W.ジャンプ)	English/Academic Listening Str. (E-W.ジャンプ)	English/Academic Listening Str. (E-W.ジャンプ)
E-417	PC	30	英語4 (旧 4) ワンバートン	英語4 (旧 4) ワンバートン	英語4 (旧 4) ワンバートン	英語4 (旧 4) ワンバートン	英語4 (旧 4) ワンバートン
E-418	PC	30	***** (*****)	***** (*****)	***** (*****)	***** (*****)	***** (*****)

図7 教室使用状況

教務課に教室の問い合わせをすると、図7のような画面を見て、「1時限ならE-411とE-417が空いています」との結果が知らされる。もし、どこの教室も空いていなければ、無駄足を踏むことになる。

教室の設備については、図8のように写真が表示されるようになっていいる。

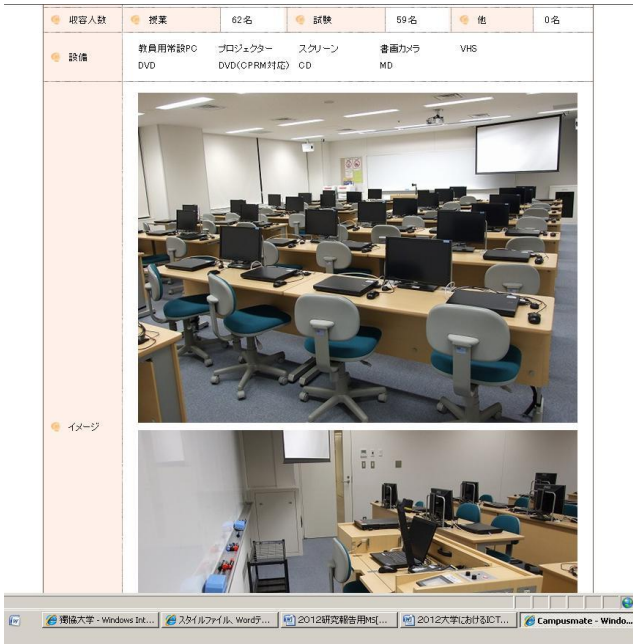


図8 教室の写真

7.4 キャビネット機能

2012年に追加された機能として、キャビネット機能がある。これは、共通に利用するものを置いておく場所である。現在図9のように、ここには各種申請書と情報学研究所で共通に利用するものを置いている。



図9 キャビネットの例

しかし、利用者の申請が必要なので、学生が共通にキャビネットに置く訳ではない。

8. システム利用比較

このようなシステムを用意しても、利用者が増えなければ意味がない。ここでは、2つのシステムの利用比較を行う。

8.1 講義支援システム

教育支援室では、独自の講義支援システムを開発した。2000年に講義支援システムとして講義支援システムとしてコーディネータ（外部）と学生とで開発されたものを2003年に改良して利用していたが、講義ごとにユーザIDとパスワードのかかったもので非常に使いにくかった。しかし、2007年より教員の要望により新システムが構築された。

システムにログインするには、パソコンのユーザIDと同じIDが利用でき、しかもパスワードはその都度取得できるようになっている。パスワードを要求すると、IDが大学のWebメールに送信される。その後、システム内でパスワードを変更すればよい。また、講義支援システムの利用申請で、講義科目名（ゼミも含む）を申請しておけば学生情報は教育支援室で入力される。学生も教員と同じように、My Pageから科目一覧を見ることができるので、講義支援システムを利用していない教員へ、利用して欲しいと要望することもあった。

講義支援システムの機能としては、次のようなものがある。

- ・ 学生へのお知らせ
- ・ 授業計画
- ・ レポート提出
- ・ 成績評価
- ・ 掲示板
- ・ 授業ガイド
- ・ 関連リンク

授業でよく用いられるものを中心に、できるだけ機能を少なくしており、マニュアルなしですぐに利用できるようになっている。このような使い易いシステムが開発されたことにより、2007年度よりシステムの利用者が大幅に増えている。

講義支援システムは、簡単に教材を置けたり、レポートを提出したりできるようになっているので、現在でも利用者数が比較的多い。また、新しいシステムに慣れない教員が多いため、まだ新システムに移行していない。

講義支援システムの利用者数とクラス数を表1に示す。

表1 講義支援システム利用者数

	2007	2008	2009	2010	2011
利用者数	121	93	125	171	198
利用クラス数	155	160	187	239	250

2010年度に増えているのは、それまでは利用申請に天野記念館の2階まで行かねばならなかったのを、教員の研究室のある中央棟の1階でも申請ができるようになったからである。

8.2 ポータルシステム

ポータルシステムの利用については、まだ本格利用してから時間が経っていないので、利用してから1カ月の統計データしかないが、この結果について述べる。

図10に、学生のログイン記録を示す。

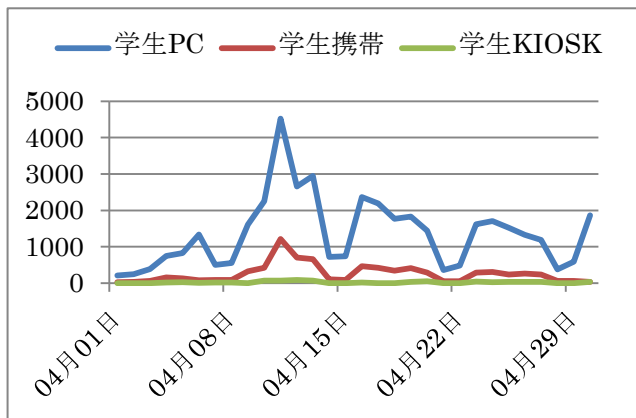


図10 学生のログイン数

4月1日から4月30日までの学生のログイン記録をみると、登録確認の4月11日にはパソコンからのアクセスが4526件、携帯電話からのアクセスが1208件、学生KIOSKからのアクセスが24件となっている。それ以外は、1800件程度のアクセスである。自宅からもアクセスできるので、携帯電話よりもPCのアクセスが多くなっている。学生用にPorTa用のKIOSK端末が証明書発行の機械の横に置いてあるので、それを利用する学生も多少いる。

一方、教員と職員のアクセス記録を図11に示す。

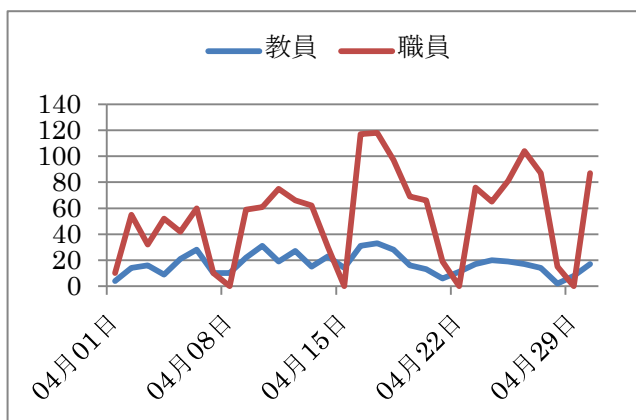


図11 教職員のログイン数

図11からも分かるように、教員のログイン数は非常に少ない。4月8日、15日、22日、29日は日曜日であるため、

職員のログインは0であるが、教員は日曜日に利用していることが分かる。

9. 今後の課題

今回は新組織と新システムを中心に調査を行った。まだ開始されて時間も経っていないため、いろいろな問題点がある状況である。利用する教員は、どこに何を言えばいいのか分からないし、対応するスタッフもとまどうことも多い状態である。今後、これらの組織とシステムが定着するには、数年の期間が必要となるだろう。現在、情報学研究所では、どのようなシステムが教育の支援としてふさわしいのかを研究中である。今後とも研究成果を発表してゆくつもりである。

謝辞 本研究の一部は、獨協大学情報学研究所研究助成によるものである。

参考文献・参考URL

- 1) 立田ルミ, “大学における ICT 支援—獨協大学の取り組みから—”, 情報処理学会, 研究報告, 2007-CE-90, pp55-62, 2007.7
- 2) 立田ルミ, “イリノイ大学における ICT 支援”, 情報科学研究, 第25号, pp1-10, 2008.2
- 2) 獨協大学2012年度授業一覧
http://www.dokkyo.ac.jp/kyoumu/b03_03_j.html (2012年6月1日)
- 3) 獨協大学ポータルサイト
<https://portal.dokkyo.ac.jp/campusweb/top.do> (2012年6月8日現在)
- 4) 獨協大学講義支援システム
<https://kocho.dokkyo.ac.jp/> (2012年6月10日現在)
- 5) 獨協大学ゼミホームページ
<http://www2.dokkyo.ac.jp/index-s.htm> (2012年6月10日現在)
- 6) 教育支援センター運営委員会資料